

臨床化学分析装置の測定前確認事項の
意識調査 その2 ～試薬・キャリブレーションの測定
前確認～

○八賀孝浩 岩田幸広 秦 暢宏 淵上孝一
三末高央 長谷健二（臨床化学検査研究班）

【目的】

現在、臨床化学成分の測定には、色々な汎用自動分析装置が用いられている。その性能はユーザの要望に呼応して向上しており、検体をセットし、ボタンを押すだけで、迅速に検査データを得ることができる。しかし、信頼性の高いデータを得るためには、ユーザが日々分析機器の状態や試薬・キャリブレーションの管理、管理血清の状態など様々な要因を把握する必要がある。今回、2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ実施時に行った測定前確認事項のアンケートの集計結果を用い、各施設における測定前の確認実施状況と、サーベイ結果への影響について報告する。

【対象と方法】

2009年千葉県臨床検査技師会サーベイ臨床化学部門において『測定前確認事項について』と称してアンケートを行い、分析機器・試薬・キャリブレーションの3部門について調査した。

【結果】

試薬・キャリブレーションにおいては、回答施設の約半数がサーベイ測定日から3日以内に調整を行っていた。また、キャリブレーション表示値の入力は90%以上の施設が確認を行っていたが、校正後のキャリブレーションの打ち返し測定は50～70%ほどであった。

【まとめ】

試薬およびキャリブレーションは、調整後の日数が経過するほど成分の劣化が生じ、測定データに影響を及ぼす可能性がある。特にキャリブレーションは調整直後に使用するのが望ましい。また校正後キャリブレーション打ち返し測定は、正しく校正が行われたかどうか確認するためにも実施することが望ましい。

新松戸中央総合病院 検査科 047-345-1116